

これはオペラ? ミュージカル? ジャンルを超えた傑作エンターテインメント!!

「キャンディード」の世界へようこそ

このキャラクターに注目!

狂言回しとして登場する原作者ヴォルテールは、18世紀フランスの哲学者にして国民的英雄。芸達者なエンターテイナーぶりで笑いをとりつつ、ときに鋭い言葉を口にする、印象的な役どころ。

笑える!?! キャンディードの“ぶっとび”大冒険

戦争、地震、火災裁判……次から次へと災難に巻き込まれたかと思うと、死んだはずの恋人が生き返る!? 青年キャンディードの旅はあまりに奇想天外で、笑えるくらい破天荒。しかし、右往左往する彼らの様はいつしか私たち自身とも重なり、ラストで主人公が“本当の幸せ”を見つける姿には胸を打たれる。そう、「キャンディード」はウィットと人間愛に満ちた、大人のエンターテインメントなのだ。



2 戦争に巻き込まれ、クネゴンデは死んでしまう。傷心のキャンディードは船旅に出るが、嵐で船が難破。

1 「この世は万事成り行きまかせが一番幸福」という師の教えを素直に信じる、純朴な青年キャンディード。ある日、恋人のクネゴンデと良い雰囲気になったところを、彼女の父親に見つかり追放される。



3 大地震や火災裁判に巻き込まれるキャンディード。



4 死んだはずの恋人が、映画女優として生き返る!?

キャンディードの旅は波瀾万丈。長い放浪の果てに青年がつかむものは……? 旅の続きは劇場で!!

ダンス! ダンス! ダンス!

物語の随所に盛り込まれたダンス・ナンバーも、見どころのひとつ。振付は、「モダン・ミリー」で2002年トニー賞を受賞したロブ・アシュフォード。ロンドンの精鋭ダンサーたちによる、エネルギッシュなパフォーマンスが楽しめる。クネゴンデ始め、歌手たちのダンサー顔負けのダンスにも注目!!



大胆! おしゃれ! 1950年代のアメリカへタイムスリップ!

18世紀フランスを舞台とした物語を、作品が作曲されたアメリカ黄金期の50年代から60年代半ばに置き換えるという、鬼才ロバート・カーセンのユニークなアイデアが光る本作。ステージを彩る輝かしいポップカルチャーで、気分は一気に50年代!! 当時の世相に批判的な視点を内包し、観客にちょっとした思考を促す作品でありながら、華やかなエンターテインメントとしても楽しめるところがこの作品の魅力。

バーンスタインの美しい音楽を、迫力のフル・オーケストラで!

本作の最大の魅力のひとつが、バーンスタインの音楽だ。ワクワクするような序曲を始め、美しい愛の二重唱、クネゴンデの圧倒的な歌唱力が楽しめる「きらきらと輝き朗朗かに」、大迫力の合唱など、魅力的なナンバーが満載。タンゴにワルツ、ジャズの要素まで、ありとあらゆるスタイルを取り入れたバーンスタインの手腕が、豪華フル・オーケストラで堪能できる。美しい音の洪水を、ぜひ劇場で体感して。



◀ブラウン管

客席に入るとまぶし目に飛び込んでくるのが、50年代を象徴する“夢の箱”=テレビ。めまぐるしい大冒険を、巨大なブラウン管を通して、チャンネルが切り替わるようにわかりやすく見せようというコンセプト。

◀ケネディ大統領夫妻▶

キャンディードが物語の序盤で暮らすお城は“ホワイト・ハウス”。城の主である男爵夫妻は“大統領”と“ファースト・レディ”という設定。男爵夫人のジャクリン・ケネディ風エレガンス・ファッションに注目。



◀マリリン・モンロー▶

世界を虜にした永遠のセックス・シンボル。ハリウッドの大物映画プロデューサーの愛人となったクネゴンデが歌う「きらきらと輝き朗朗かに」は、モンローの代表作「紳士は金髪がお好き」(53年)のパロディーという演出。圧巻のショー・ストップ・ナンバーだ!!

